

# 健康新聞

新しい健康法を伝える新聞です

新健康協会は「心身をいやし、新たな神智によって視野を広げ、心の拠りどころになる救いの場」をめざして活動しています。新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間のもつ治癒力や適応力をお伝えしています。心と体をいやす「新しい健康法」を通して自然界の摂理を学ぶことで、人は生ある間に「どのように生き、何をすべきなのか」を知ることができます。

肉体的、精神的なコトでお悩みの方も是非一読されてみてください。

## 浄霊体験記

### 浄霊で元気になり 100 歳 感謝の毎日

おかげ様で 100 歳になりました！現在も趣味の俳句を続けています！心身ともに救われる 常に神様が見守ってくださっているのだと感じました！

発行所 新健康協会 無料  
新健康協会総本部 福岡市東区唐原 6 丁目 7 番 1 号  
TEL:092-661-1531 (代) HP:https://shinkenko.jp

2021 2月号 月刊 毎月 1 日発行 vol.771



左の御論文は、明主様（浄霊法の創始者）が昭和二十六年（一九五二）に発表されたものであります。御一読頂きまして、世界平和と心身の健全な人間作りを目指す私達の運動を、御理解頂ければ幸いです。

## 細菌は有難いもの

この題を見た人は、信者ならいざ知らず、第三者としたら吃驚仰天、私の頭脳を疑いたくなるであろう。しかしこれは真理である最高の霊科学である以上、よく読んで深く考えてみれば、成程と思わざるを得ないであろう。単に細菌といっても、ここでは病気に関したものをいうのであるが、この細菌なるものは何が為に存在し、人間に害を与えているかという事で、これを徹底的に検討する事こそ、現在文化に對しての最重要問題であろう。

もっともこの事は、専門家諸君においても常に研究努力しているには違いないが、今日までの科学の程度では細菌の本体等、到底把握出来るまでに至っていないのである。それどころではない。現に目の前に蔽い被っている結核や伝染病等の問題にしろ、当事者は全身全霊を打ち込んでいるにもかかわらず、何等見るべきものはない現状である。というのは、全くその観点が根本的に誤っているからで、医学においてはまだ殺菌等によって、伝染を防ぎさえすればよいとのみ思っているだけで、いわばいつも私がいう結果論的見方で、外殻だけを対象としているに過ぎないのである。ところが原因は心の奥深いところにあるのだから、その点に気が付かない限り、何程多額の費用を使い、如何程努力したとて、徒勞以外の何物でもないのである。遠慮なくいえば、現在の細菌医学はまだホ

ンの播種時代といつてもいい位のものです、実際に役立つのは何時の日か見当もつかないのである。さてこれから私の言わんとするところを書いてみるが、そもそもこの地球は人間の世界であつて、人間が主人公であるから、万有一切は人間に必要なもののみで、不必要なものは一つもないのである。従つて、病気になるものもその病原であるところの細菌といえども、ことごとく大いに必要の存在であるにかかわらず、それを無用有害物として忌避し、絶滅させる事のみを専心しているが、これこそ全く根本が分からないからである。故に細菌その物の健康に有用なものはないのである。とはいうものの、この事の説明に当たつて困る事は、今までの学理と比較して、あまりに驚異的であるから、この理を納得するには、余程心を虚心坦懐白紙になつて、精読されなければならぬのである。

ところが不思議も不思議、こんな入浴などと違つて、一文の金も要らずに済む結構な掃除を、一生懸命止めて出さないうようにする。それが医学であるとしたら、何と馬鹿馬鹿しい間違ひではあるまいか。何が間違ひしているといつて、これ程の間違ひは恐らく外にあるまい。従つてこの間違ひの為に健康な肉体を弱くされ、長生きの出来る体を早死するようにされて、平気どころか有難がつているのだから、今日の文化人なる者は全く、哀れなる者よ、汝の名は文化人なり”である。ところがもつと厄介な事がある。それは汚物を出さないようにするその手段に、汚物を用いるのであるから、かえつて汚物を増す結果になるといふ誤り方である。従つてこの道理さえ分かたなら、病氣程結構なものはない事を知るのである。

そこで、いよいよ細菌論であるが、人体の汚物とは勿論血液の濁りであつて、この濁りを無くしてしまふにはどうすればいいかといふと、神様は誠に面白い方法を作られた。それは細菌といふ目にも見えない細かい虫によつて掃除をさせるので、そこで神様はこの虫を湧くようにした。即ち細菌発生の根源を作られたのである。この事については別に詳しく出ているからここでは略すが、とに角細菌という微生物は、最初濁血所有者の血液に入り込み、濁血を浄血にする役目をするのである。それはどういふ訳かといふと、濁血というのは血液中にあつてはならない、いわば不純物が存在しているのである。面白いことには不純物といふ微粒子は、実は細菌の食物になるのであるから、細菌はそれを食いつつ、非常な勢を以て繁殖し、食うだけ食つた奴から、排泄物に混つて体外へ出てしまふから、順次濁りは減り、遂に浄血者となるのである。その際の発熱は細菌が濃度の濁血では食ひ難いから、液体に溶解して食ひやすくなる為である。だからこの理が分かつたなら、細菌といふものは、全く人間体内を清浄にする掃除夫なのであるから、大いに歓迎すべきものなのである。

ところで問題なのは、一体濁血といふものは、どうして出来るかといふ事で、これこそ万有相應の理によつて、実に合理的に造られるのである。といふのは、人間は神様の定められた役目を自覚し、それを正しく行えばよいが、多くの人間はつい不正や過ちを冒しやすいため、その結果霊が曇り、霊が曇ると血が濁るので、それが病の因となり、苦しむことになるのだから、つまり過ちに對する刑罰といふ訳で、こうした間みか、世の中へ害を与えるから、やむを得ず神様はさういふように造られたのである。従つて人間が正しい行いさえすれば、濁血者とならないから細菌は湧かず、病氣はこの世からなくなるのである。これが真理であつてみれば、病氣といふものは人間が作つて、人間自身が苦しむのであるから、何と愚かな話ではないかといふ、その事を教える為にこの文を書いたのである。

## 新健康協会とは

病氣・貧困・争いのない世界、人類の幸福を最大の目標とし、心身の健康と靈性の向上を目指した「浄霊法」と「自然農法」を実施。また「美術・芸術」による魂の向上に努めています。

本教の教祖『明主様』は昭和の初めより、幸福の原動力となる「浄霊」を確立され、特に病氣や色々な悩みで苦しむ多くの人を癒し、幸福へと導かれました。

### 浄霊で元気になる100歳 感謝の毎日



浄霊は幸福を生む方法です。明主様は、幸福の根源は魂にあり、魂が浄まると運命が向上し、病氣やあらゆる悩み苦しみが解消し幸せになることを、事実を以て示されております。次に紹介してまいります数々の喜びと感謝の体験記も、それらを広く物語っています。



平城支部  
山口千代子(100)

私は若い頃から軽い心筋梗塞がありました。また、働いている頃は、肝臓の調子が悪かったのか、顔、首などにどす黒い斑点のようなものが広がり、お医者さんにいただいた薬の他、毎日漢方薬を煎じて飲んでいました。

私は娘家族と一緒に住んでおります。ある時、子育てしながら仕事勤めをしている娘が、左半身麻痺の状態になりました。首の牽引、針治療、リハビリに毎日通っていましたが良くなり、その様子を見ていた会社の上司から「新健康協会と浄霊」を紹介していただきました。するとそれから娘の状態も少しずつよくなり、その後、入会することになりました。私も浄霊は半信半疑でしたが、娘から毎晩浄霊をいただきました。

すると、以前から胸のあたりに鉛玉ぐらいの大きさのものが詰まっている感じがあったのですが、浄霊をいただいていたある晩、その鉛玉のようなものがストンと落ちた感じがしました。胸が大変すっきりしましたので、すごいお力だと思いました。娘も、麻痺して動かなくなっていた半身が普通に動かせるようになったので、私も支部に連れて行って欲

しいとお願いし、支部で明主様のことや浄化作用のことなどを分かりやすく教えていただきました。支部の先生のお人柄にも惹かれ、浄霊を続けるようになりまし。以後、週に二回ほど支部で浄霊をいただいているうちに段々と元気になることができました。

私はおかげ様で、昨年で百歳になりました。眼や耳は徐々に弱ってき

感謝感謝の毎日です。  
明主様、誠に有難うございます。  
(京都府相楽郡)

### 腰痛よくなり ますます元氣

川棚支部 岩永達也(54)

令和元年十一月下旬、物を持ち上げた後、仙骨あたりに少し痛みがありました。その後、日を追うごとに痛みが増して、仙骨の他、腎臓付近から細腰、下腹部にかけて痛みが広がり、歩行することも段々困難になっていきました。

十二月二日、出勤のため起き上がるとうとして身体を動かすと痛みが走るため、家の中では杖を使いながらゆっくりと壁を伝い歩き、時間をかけて服を着替えて、そろりそろりと車に乗り込み何とか仕事に行きました。時間が経つにつれて段々痛みが激しくなりましたので、午後から仕事を休み支部で浄霊をいただきました。

翌三日の夜中三時頃、トイレに行くため起き上がろうとしましたが、腰から、背中全体にかけて激しい痛みがあったため起き上がることができずに、六時頃横になった状態で尿瓶に用を足しました。その時の尿の色は、濃い茶色をしていました。その日は仕事を休み、支部へ行くことができなかったため、横になったまま家族の者から浄霊をいただきました。そして、支部に出張浄霊をお願いしました。

おかげ様で、この時には、座って浄霊をいただくことができました。浄霊をいただき終わると随分と楽になり、杖を持ちながらもスムーズに歩いてトイレに行くことができました。

翌四日の朝、トイレに行こうとしたら再び起き上がることができなくなりました。用を足した後は、痛みが少し楽になり、支えがあれば立つことができました。仕事に行くことができませんでした。午前中は少し痛みがありました。午後からは少しづつ痛みが軽くなりました。翌日以降も仕事へ行くことができました。

痛みの激しい当初は、仕事を長期間休むことになるのではないかと不安がよぎり、生活のことも考えること、今後どうなるのだろうかと考え、今もありません。明主様にお頼りさせていただき、しっかりと浄霊をいただくことで良くなりました。また、今回の浄化をい

### バイク事故 一カ月で快復



早岐支部  
鴨川豊治(60)

痛でしたが、約一、二週間の短期間で早くよくなり、ますます健康にしてい

私が新聞配達をしていた時の出来事です。  
二〇二〇年六月普段通りバイクで車一台がやと通るほどの生活道路を配達して

に痛みがありました。全身に痛みが起こし、残りの新聞十部ほどを配達しました。その後、販売店に自損事故を起こし、ケガの状況は分からないけど動けること、バイクは自走で帰れること、配達は終了したことを報告して帰りました。その時のバイクの状況は、フロントのカゴがつぶれ、カゴの前にあるヘッドライトは左上を照らし、ハンドルは左に向けないと真っ直ぐ走れない状態でした。後日バイクの修理を依頼したら、バイクの骨組みであるフレームが曲がっているために修理はできず廃車と言われました。

**浄化作用ってどういうこと？**  
人間には体内の毒素を排除して健康を促進しようとする働きがあります。例えば、カゼの場合、蓄積してきた不純物や体外から入ってきた毒素を浄化するために熱や痛みが出ます。そしてその結果ハナやタンなどが体の中が掃除され、霊・体共に清浄化されます。その毒素排除の過程を浄化作用と言います。ですから浄化作用は、体の不調和を調和させる、大切な清掃作用でもあるのです。

全体がパンパンに腫れ、動かそうとすると激痛がありました。私は配達を三日間休み、毎日支部や自宅でも何度か浄霊をいただきました。  
四日目には足を引きずりながらもバイクでの配達ができるまでに快復しましたが、まだ腫れはありました。事故当時たくさんの方に心配をおかけしましたが、それから一週間後、足の腫れがほとんどなくなったことに皆さん驚かれました。足を曲げるとまだ痛みがありました。毎日浄霊をいただき続けて約一カ月後には正座ができるまで快復しました。  
私は子供の頃から無医薬で過ごしてきましたが、数多くの奇跡的な体験をしてきました。今度も、乗っていたバイクが廃車になるような激しい事故でありながら全身の打撲と左ひざのケガだけで済み、そのケガも約一カ月後にはほとんど元の状態に戻れるという奇跡的な体験をして、改めて浄霊の力を感

多くの方たちに、この浄霊を体験していただきたいと思



# 浄霊入門 ⑧

(浄霊を体験したフランス人のつぶやき)

浄霊は比較できないものである。

浄霊は自然治癒をするエネルギーであり、霊的に目覚めるためのモノでもある。つまり、幸福に達するための方法であるが、まだまだ知られていない方法である。

前回は浄霊をいただくことについて話をしたが、今回はその浄霊を取り次ぐことについて話したい。

浄霊をする人は、まず協会の会員にならなければならない。

会員になることは、人のために自分の時間を与えるということにもつながり、これは自分にプラスとなる。

取り次ぐエネルギー、力や光は決して取り次ぐ人のモノではない。神様からいただくものである。あと一番大事なのは、取り次ぐ人も「浄霊を取り次ぎたい気持ち」がないといけない。

浄霊を取り次ぐ人は、神様から直接「光」を補給され、いただく者に送る。難しいことは何もなく、ただ座って自分の時間を少し相手にささげるのである。

よく知り合いに浄霊の話をすると、自分のエネルギーがどんどん消耗されていくのではないかと、恐れて質問してくる。実はその反対で、取り次ぐ人も自分の魂のくもりを同時にとっているのだ。もちろん、それはいただく人よりも少ないかもしれないけど、そこはわからない。

結論、浄霊を取り次ぐことも人間にとっていいことなんだ。

取り次ぐ人はただ取り次げばいい。

診断などはせずに神様に任せるのだ。

取り次ぐ人はボランティアみたいな感覚でいる。

自分の時間を与え、人を手助けする事で神様のお仕事に貢献しているのだから、なんて素晴らしいことだろう。

最後に、取り次ぐ人も、いただく人も、お互い「おかげをいただいたこと」に感謝をし、その気持ちで浄霊を終わらせるのが大切である。



明主様は、「美」による「心の浄化」を説かれました。世界の人々が美を築く時、それは文化の進歩にも貢献する事となり人間の向上にもつながり、天国世界が出現することにもなると教示されました。

## 歌川広重作

### 『名所江戸百景』之内

#### 《水道橋駿河台》

天の濃紺と川の濃紺が呼応する画面いっぱい、大胆に配置された鯉のぼり。奥には、幟旗や吹流しの立てられた家並みが広がる晴れやかな光景です。胸踊るような勢いさえ感じさせる本作は『名所江戸百景』の《水道橋駿河台》です。

駿河台は、もともと本郷・湯島台とひとつづきの神田山と呼ばれた地域で、日比谷入江の埋め立てや神田川開削によって形成された土地でした。大名や旗本の武家屋敷が建ち並ぶエリアで、富士山が望める地であること、駿府城に仕えていた旗本たちが住んだことがその名前の由来であると伝えられています。

鯉のぼりといえば五月五日の端午の節句に飾られる、初夏の風物詩。もともと菖蒲の季節に邪気を払う習俗が、「菖蒲」が「尚武」に通じることから武家階級で尊ばれ、家紋の入った幟や吹流しなどの武家飾りを立てることが流行したそうです。一方で鯉は、黄河上流の竜門をさかのぼることのできた鯉が竜と化すという中国の伝説から、立身出世の象徴とされてきました。滝を登る鯉の姿は、木製のおもちやとして親しまれたようですが、いつしか単独の吹流しとして仕立



てられるようになったのです。ただしこちらは旗をあげるのを禁じられていた町人たちによって広まったもの。それでも鯉のぼりがはたためる場面にこの地を選んだのは、案外「水道橋」という名前とかけた言葉遊びかもしれません。

ところでこの鯉のぼりの姿は、安政二年に江戸を襲った大地震、安政三年二月から安政五年一〇月にかけてです。地震のほんの数ヶ月後から発売されたものでした。さらに、作品ごとの発売時期をたどると時事的な出来事が読み込まれているという説があり、この《水道橋駿河台》の改印は安政4年閏5月なので、少しずつつ立て直しが進んでいた時期といえます。

安永年間の川柳に「五月雨が晴れると鯉のたけのぼり」というもの

があります。江戸の町にすでに鯉のぼりがみられた証拠として引かれるものですが、憂鬱な雨から快晴の初夏へ解放される時、鯉のぼりはそれを実感するものという、江戸の人々の気持ちをすくいとっているように思います。これが受け継がれてきたとすれば、鯉のぼりは大きな災難、地震からの復興を祈り、励まし、祝うものであったとしても不思議ではないのです。

解説 松田愛子

### 清明会館

「生を写し、真に迫る」後期展

期間：1月7日(木)～5月16日(日)

※清明会館お問い合わせ ☎(092) 661-1535

健康新聞についてのお問い合わせ ☎(092) 661-1535まで